



第48回全国高等学校総合文化祭

清流の国ぎふ総文2024



全国高等学校総合文化祭

「清流の国ぎふ総文2024」に自然科学部が参加・発表しました

文化系部活動の全国大会である「全国高等学校総合文化祭」が7月31日(水)～8月5日(月)に岐阜県で開催されました。

自然科学部門は8月3日(土)～5日(月)に岐阜協立大学を会場に、全国から800人ほどの参加者があり、物理・化学・生物・地学・ポスターの5部門に212件の研究発表が行われました。

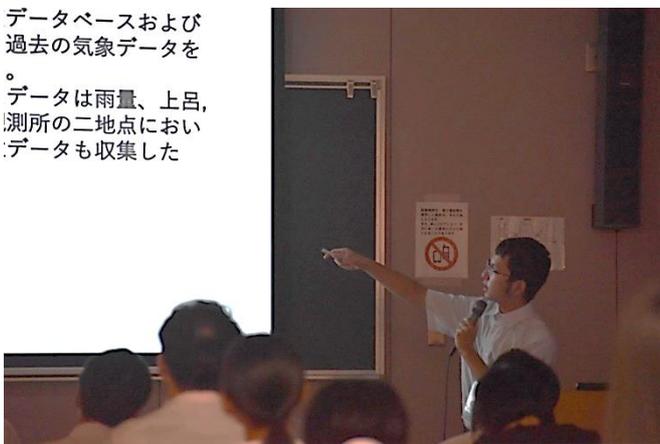
加茂高校自然科学部は化学分野と地学分野で3件の研究を口頭発表しました。



地学分野 「岐阜県白川町で発生したバックウォーター現象による河川氾濫」
「月食画像から求める月の大きさ」

化学分野 「オオキンケイギク」を用いた草木染 ～媒染剤による多様な染色を目指して～

データベースおよび過去の気象データを。データは雨量、上呂、測所の二地点においてデータも収集した



全国の高校生の研究内容と発表の態度は素晴らしいものがあり、質問にも堂々と答え、研究が自分のものになっている様子がうかがえました。残念ながら、加茂高校は入賞することができませんでしたが、大いに刺激になりました。

自然科学部門では研究発表だけでなく、巡検として自然観察や博物館の見学を行います。4日(日)の午後、全11コースを岐阜県の高校生の案内し、加茂高生は「ヤマザキマザック工作機械博物館」の見学案内を担当しました。ヤマザキマザック工作機械博物館は、その名の通り機械を作るための機械が展示紹介されています。普段見ることができない歴史的な機械から、最先端の機械まで、実際に動く様子などの説明を受けました。



5日は、生徒交流会、記念講演会の後、閉会式が行われました。生徒交流会は、生徒実行委員会が主体となって岐阜県や科学に関するクイズ大会で、他県の生徒とグループになって解答していました。その後、来年度の開催県である香川県への引継ぎ式が行われました。加茂高校自然科学部も来年度の香川大会への出場を目指して、11月の自然科学系部活動研究発表交流会で頑張りたいと思っています。

